



株式会社 Sustech

「CARBONIX Ver. 1.300」 妥当性確認報告書(サーベイランス)

株式会社 Sustech
代表取締役 丹野 裕介 殿

1. 妥当性確認対象

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社(以下、「SOCOTEC」という。)は、株式会社 Sustech (以下、「組織」という。)からの依頼に基づき、組織が設計・開発した GHG 排出量算定システム(Scope 1, 2(マーケット基準), Scope 3)「CARBONIX Ver. 1.300」に対し、同算定システムの利用者が定めた GHG 排出量の算定範囲における排出量が GHG プロトコル「GHG PROTOCOL Corporate Accounting and Reporting Standard」「GHG Protocol Scope 2 Guidance」「GHG PROTOCOL Corporate Value Chain (Scope 3) Accounting and Reporting Standard」及び「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(ver.2.7)」(環境省・経済産業省)に基づいて適切に算定・出力されるものとして設計されているかについて妥当性確認(サーベイランス)を行った。

本件の目的は、「CARBONIX Ver. 1.300」の設計に関して、判断基準に基づいて独立の立場から妥当性を客観的に評価し、第三者としての意見を表明することである。

2. 妥当性確認概要

SOCOTEC は、「JIS Q 14064-3:2023 (ISO14064-3 : 2019) 温室効果ガスに関する声明書の検証及び妥当性確認のための仕様及び手引」の要求事項を参照した SOCOTEC の手順に基づいて妥当性確認手続きを実施した。妥当性確認対象範囲は「CARBONIX Ver. 1.300」である。

保証水準は「限定的保証水準」を適用して手続きを実施した。

妥当性確認手続きでは、組織の本部において、「CARBONIX Ver. 1.300」における同算定システムの利用者の算定バウンダリーの設定方法、入力するデータの選択と入力方法、算定方法論、算定に適用される係数、演算処理、GHG 排出量の表示に関して、開発者への質問及び関連資料の閲覧、設計開発プロセスにおける証拠の確認、再計算によるテストによって行われた。

3. 妥当性確認の結論

組織が設計・開発した「CARBONIX Ver. 1.300」が判断基準に従って設計されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

<妥当性確認有効期間：2025 年 7 月 22 日～2027 年 1 月 31 日>

4. 留意事項

「CARBONIX Ver. 1.300」の責任は組織にあり、本妥当性確認に関する責任は SOCOTEC にある。
組織と SOCOTEC との間には、特定の利害関係はない。

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社
ヘッド・オブ・ベリフィケーション 福島 眞英

Masahide Fukushima

2026 年 2 月 3 日